



「うたごえの会」よりご案内

一緒に楽しく歌いましょう！



Vol.7

2026年1月10日

代表 石原 正雄

作新台自治会「うたごえの会」は、おかげさまでスタートから2年が経ちました。これまで支えてくださった多くの皆さまに感謝申し上げます。

毎回約30名で、童謡・昭和歌謡・ポップス・演歌まで幅広く歌っています。ピアノやキーボードの伴奏で、リクエスト曲を含む16曲ほどを楽しんでいます。楽譜は使わず、入口に用意した歌詞ファイルを手に、知っている歌は思い切り、知らない歌はなんとなく口ずさむ...そんな自由で気楽な雰囲気がこの会の魅力です。

歌の合間には、ちょっとした小話や脳トレを交えた“ジョーク・タイム”もあり、ほっと一息ついていただけます。

今回は、実際に参加されている3名の方に「歌と私」をテーマに寄稿していただきました。それぞれの視点から見える“歌う時間の価値”は、きっと皆さまの暮らしにも重ねて想像いただけるのではないのでしょうか。

「興味はあるけれど...」と迷っていらっしゃる方も、まずは新しい年の始まりに見学だけでもお気軽にいらしてください。自由にのびやかに、月2回の心ほぐれる時間をご一緒できることを楽しみにしています。

「おもしろ名前」の外国人です！

歌の合間のジョーク

- ◇ 編み物が得意なデンマーク人 ケイト・アンデルセン
- ◇ 散歩を日課にしているフィンランド人 サンボ・ニッカネン
- ◇ 渋滞でトイレに行きたいイタリア人 チョビット・モレッタ
- ◇ ロシアの耳鼻咽喉科医 ノゾキミール・ノドチェンコ
- ◇ チベットの産婆さん タライ・マダ
- ◇ 水虫に悩まされたタイ人 ムレチャッテ・カイチャイタイ

「うたと私」



飛田 勇さん

前号の堀越先輩の結婚式での「別れのブルース」の件、私にも似たような思い出があります。会社の飲み仲間の結婚式で、仲間の一人が当時(昭和四十一、二年頃)大ヒットした千昌夫の「星影のワルツ」を歌ってしまったのです。

～「別れることは つらいけど 仕方がないんだ 君のため 別れに星影のワルツをうたおう」～

酒が入った席での若者は強いですね。尚、二人共、歌に関係なく金婚式を全うして亡くなっています。

表題について、高校時代の卒業送別会で春日八郎の「別れの一本杉」を歌いました。理由は作詞の「高野公男」が郷土(茨城)出身であるということのみ。

社会人になってからは、仕事の関係上、歌うチャンスが増えてきて、一時期は連日のように、二次会で歌っていた。そういう時代でもあった。

現役を退いてからは、カラオケ、愛唱歌等の講座、教室に通い、そのまま同好会になり、今に続いている。仲間も当然多くなってきました。

現在、カラオケ仲間、うたごえ仲間等、定期的に月十二回ほどどこかで声を出しています。健康維持、ボケ防止の一つの方法と思っています。

「楽に寄す」♪An die Musik♪ 野口 理子さん

40年前、小学校のPTA会議が終わった後、知り合いになった同年輩の2人の女性がソワソワとしながら出ていくのを見かけた私は、思わず声をかけてしまいました。

「どこへ行くの?」「あら、あなたも来る?」

連れていかれたのは文房具屋の2階でした。10人くらいの人が狭い部屋にぎっしり座っていたのです。何かの集会のようで、あらお食事会ではなかったとがっかりしてしまいました。「これ見てね」と差し出されたのは、小林秀雄の『落葉松』という歌集でした。クラシック音楽を聴くばかりだった私が、自ら歌うことの楽しさを覚えたのです。

1月～5月の開催予定

★ 予約不要
★ 自由参加

＜毎月 第1・第3 月曜日＞

1月	4/5(月) 済み	1/19(月)
2月	2/2(月)	2/16(月)
3月	3/2(月)	3/16(月)
4月	4/6(月)	4/20(月)
5月	5/4(月)※	5/18(月)

※ 5/4(月)は祝日ですが開催します

時 間 10:00～11:30

場 所 作新台自治会館 1階

◆ 歌詞ファイルは入口に用意してあります

◆ 会費は無料です

「うたごえの会が

一人身生活の憩いの場に」S.A. さん



夫が逝って四年目の春('25年)、友に誘われて、作新台「うたごえの会」に参加させていただくことになった。

寂しさと一人身生活の緊張の中で、死後のかたづけに一年、それが終わって健康でなければ、と介護で中断していたカーブスに復帰。しばらくそっとしておいてと言っていた友との交流も復活し、誰とも話さない日がないほどおしゃべりにこと欠くこともなく、生活にも慣れてきて、残りの人生を楽しもうとバケットリストをつくり、前向きに行動するようになった。リストの一つ、一昨年はキーボードの練習を始め、指を動かし、頭の体操をすると同時に歌って声を出す挑戦もできた。歌う楽しさに目覚めたとき、友の誘いに「行ってみよう」という気になり、足を運んだらとてもいい会だった。

歌のみならず、ダジャレやらクイズなどを休憩時間後に挟み、コミュニケーションがあり、楽しく気軽な参加をモットウに、毎回三十人ほどが集う。一人で居たらなかなか笑えないが笑う機会にも恵まれた。

歌の背景にある説明を聞くのもいい。なかなか覚えられない、二番、三番の歌詞のよさを知ったり、その歌の流行したときの世相やら思い出が甦り、歌の力は大きいことを感じる有意義な会である。石原夫妻が主催するこのボランティア活動に感謝している。

※ バケットリストとは、生きているうちに自分がやりたいこと(死ぬまでにやりたいこと)を書き出したリストのこと。夢や目標を明文化すること。

それから15年、最初の小さな女性合唱団から大きな女性合唱団へ、色々な団体からの応援にも呼ばれて鍛え上げられました。

50歳になった時、全部すっぱり辞めて、作新台自治会館で活動している「コールメリー」という女性合唱団1つに絞って歌うことにしました。

75歳になった今でも元気に歌っています。私には歌うことが健康法なのです。姿勢を正し、呼吸で腹筋と背筋を鍛え、心地よい音楽で脳が刺激されるのです。

耳が悪くなればピアノの音と違う音を出してしまうことでしょう。いつかそんな日がやってくると恐れながらも、「うたごえの会」という、また新しい歌う場所ができたことに感謝しています。